

研究テーマ：いきいきと英語を使える生徒を育成するための指導の工夫

所属 大豊町立大杉中学校
氏名 濱田 奈美
RG JH4

1 研究の背景

3 年生 21 名は 3 年間持ち上がって教えた学級である。学級の雰囲気は、明るく活発で、協力して学習に取り組める。自己表現活動を好み、楽しく英語で表現したいという生徒の意欲はあるが、基礎的な語彙の不足、構文力の不足により、思うように英語で自己表現できないもどかしさを覚えている。そのことより、英語に対して苦手意識を持つ生徒が多い。週 1 時間の選択英語の時間をリサーチ対象とする。

2 リサーチクエスト

「語彙を増やし、構文力をつけ、自分のことをいきいきと英語で表現できる」

主に Writing において -

3 予備調査

・CRT の結果より

聞くこと、読むことに関しては、全国平均よりも高いが、話すこと書くことに関しては、平均よりも下回っている。リサーチにかかわって、特に気になる項目が、「単語のつづり、文の区切り、適語選択、文章の内容理解、語順整序」での低得点傾向である。

4 仮説の設定

仮説 1 フォニックスを徹底すると、読めて書け、使える語彙が増えるだろう。

仮説 2 読みにフレーズリーディングなどを取り入れ、音読やシャドーイングで、語彙、文法、文構造の自動化を図れば、英語の語順に慣れるのではないかな。

仮説 3 多様な活動を取り入れ、楽しく学べるようにすると、生徒が自然に語彙、文構造を内在化でき、自分のことをいきいきと英語で表現できるのではないかな。

5 計画の実践

仮説 1 について

- ・ フォニックス&スペリング検定（フォニ&スペ検定）、意味&スペリング検定（意味&スペ検定）の実施と生徒の意欲高揚
基本的なフォニックスのルールを学び直しながら、読みとつづりの徹底を図る。
単語をジャンル別に分け、関連付けて語彙を増やすことができるようにする。
- ・ 毎時間授業始めに、級別に発音練習をテストを実施する。フォニ&スペ 10 級から 3 段まで。意味&スペ 10 級から現在 5 級まで。継続して作成中。

仮説 2 について

- ・ 読みの工夫
音読の徹底 シャドー・リーディング、ペア・リーディング、感情読み、イメージ・リーディング、スラッシュ・リーディング、穴あきリーディング、文字だけ？リーディング
- ・ 単語、連語、文法や文構造は、2 年の教科書を使って復習。個々の生徒のつまづきを支援しながら、まず教科書が読め、意味がわかることを徹底していく。
- ・ 並べ替え問題
英検 4 級の並べ替え問題 5 問を月に 1, 2 回取り組み、語順を意識させる。

仮説 3 について

- ・ ビンゴゲームで語彙力をつける。毎回 warm-up として、指示を入れたビンゴをしていく。
- ・ ま、違いさがし 2 枚の絵を見比べ、その違いを英文で表現する。
- ・ 語順を意識したゲーム 英文のかたまりを意識させる
a) I /played/ tennis /with Ken/ yesterday. 文の要素で区切られたカードを持ち、意味の通るように集めるゲーム

b) Who? What? Where? When? Why? の1枚つづりの紙に、自由に英作文を書く。

例 I/ studied English/ in school /today /because we'll have test.

ペアでじゃんけんし、勝った方が英文を言う。負けた方は疑問詞1つで尋ねる。

尋ねられた疑問詞の部分の語句を答え、相手の同じ疑問詞のカードと交換。

何回か繰り返すうちに、文がまったく意味がおかしくなってくる。

最後に手元に残った英文の意味を確認。つじつまが合うように説明させる。

6 実践の結果

仮説1について

検定という名前で級別に昇級していく形をとったのが生徒のチャレンジ精神を刺激したのか、一部の生徒を除いてほぼ全員が意欲的に取り組むことができたように思う。15問のフォニックスルール別に分けた単語のうち11問正解すれば合格とし、ハードルを低くしたのも、生徒にとってはとっつきやすかったのではないか。リストに挙げられている以外のルールにあう単語を書くボーナスポイントになり、意欲的な生徒は5つ6つと欄外に単語を書くようになった。昇級していくのが生徒はうれしく、自分の持ち級を競い合っている姿が見られる。ライバルより上の級を取るために、2つの級を同時に受けるダブル受検やトリプル受検する生徒も見られた。

フォニ&スペ検定を3段で終了とし、終了者は意味&スペに移行していった。これも生徒の競争心をあおったのか、いい意味で競い合い、授業最初に緊張感をもったのぞめたのも良かった。

仮説2について

基礎コースには、英語を苦手とする生徒が希望して入っているが、多様な読みトレーニングをつづけていくうちに、音読の声が大きくなっていった。理解力をどこまで伸ばすことができたかは、まだ疑問点が残る。

英検4級の語順問題の結果 5問中正解のクラス平均

1回目	3.3	2回目	2.9	3回目	2.9	4回目	1.9	5回目	1.1	6回目	3.1
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

データからは、構文力がついてきたとは言い難い。

仮説3について

英作文というと、とたんに拒否反応を示し「できません。」と言う生徒たちだが、文を固まり単位でいじるだけで自分のオリジナル文を作れることを体験させていった。授業中の活動はおもしろく楽しくできていた。そして、定期テストでのwriting問題への表現力もついてきているように思う。

7 結果の検証

仮説1については、満足のいく取り組みと結果が得られたように思う。3年生という受験を意識し、英語学習に不安を抱いていた生徒を対象にしていたことも良かったのだろう。乗ってくる生徒には、気持ちを刺激しながら学習意欲を喚起していくと、どんどんやる気を出してくれるのでやりがいがあった。しかし、最初の10級が合格できない1名の生徒に何の手立てもできなかったことに非常に悔しい思いが残る。同一のテストをしなくても、よかったのではないかと後悔している。

仮説2, 3については、学級が楽しく学びたいという雰囲気のある学級なので、ゲーム形式のコミュニケーション活動をする、食いつきがよく楽しくできるが、それが英語の力につながるかというと、そうとも言えない。読む力は、音読に費やす時間をかけなければならず、書く力も単語を知らなければ、また単語の並べ方を知らなければ表現もできない。また、理解は表現より先んずるということ今回改めて考えた。Outputを望むなら、その何倍もInputに時間をかけなければならないということを改めて肝に銘じたい。

8 成果と今後の課題

語彙を増やすと、理解し表現し得る世界が広がる。そして、コミュニケーションをとるためには、想像力が不可欠であり、英語を通じて通じ合うことのおもしろさ、素晴らしさを生徒に体感してほしいという願いを持って日々教壇に立っている。

今回、自分の授業にメスを入れ、改善を図るよう拙ない実践を重ねてきた。生徒の「英語がわかるようになってきた。」「あ、そうか。」の声を励みに楽しくプロジェクトを終えることができ、感謝している。しかし、日々の忙しさに追われ、取り組みが甘くなってしまったことも事実であり、悔やまれる。

今後も、謙虚に自分の授業を振り返り、自信を持って英語を自分の言葉として使える生徒を育てるために日々

努力していきたい。